



志高く！

校訓 学び 磨き
思いやる
合い言葉
「麻生中ABCD+」

◆麻生中学校だより◆
Tel 80-8070
Fax 77-0840
<http://www.sopia.or.jp/n-asojh/>
行方市南327の3
令和元年9月17日発行
令和元年度 第12号

◆〇〇さん、少年の主張茨城県大会へ出場！◆

〇〇〇〇さんが、令和元年度少年の主張茨城県大会主張文審査の結果、県大会の発表者に選出されました。今年度は、県内151の中学校から15,682名の応募があり、審査委員会の厳正な審査の結果、10名が発表者に選ばれ、その中の一人に小島さんが該当しました。実際の発表は、9月21日（土）大洗文化センター大ホールにて行われます。すばらしい内容の作文であるため、本人の承諾を得て、本便りに掲載しました。また、9月17日の生徒朝会にて、予行練習を兼ねた発表を行いました。

障害のある人と共に



私は、障害のある人と共に生きる社会、障害がある人も他の人と同じように生きることができる社会について考えることがあります。きっかけは、自分や家族の体験でした。私の兄は、部活動でけがをすることが多く、何回か松葉杖を使ったことがありました。不自由そうでしたが、頑張って、治療やリハビリに励んでいました。周囲の人達は皆優しく、気遣ったり助けたりしてくれていました。しかし、それは学校や近所だけのことでした。少し遠出をすると、周囲の様子は大きく変わりました。人が多い場所を歩くと、周りの人と何度もぶつかりそうになりました。邪魔になったり、迷惑をかけていると感じたりすることがしばしばありました。その度に、兄は「すいません。」と頭を下げていました。そんな経験を何度かしているうちに、兄はけがをしているときには外出しないようになりました。

兄のけがは一時的なものです。障害を抱え、一生その障害とつきあっていかなければならない人が、世の中にはたくさんいると思います。そういう人達は、兄のような体験を日常的にしているのだと思います。中には、外出するのが怖くなったり、人の迷惑になると思って外出しなくなったりする人もいるのではないのでしょうか。

最近、体に障害がある人が登場するドラマを見ました。その中にも、障害者に対する社会の冷たさを強く感じさせるシーンがあり、胸が痛くなりました。「障害のある人は何も悪くないのに、つらい思いをするのはおかしい。」何度も、そう思いました。障害のある人も、ない人も、共に楽しく暮らせる社会は、どうやったら作れるのでしょうか。

私はまだ中学生なので、できることは限られています。しかし、少しでも障害のある人にとって暮らしやすい社会を作るために、自分にできることをしたいと思います。

自分に何ができるのかを考えたとき、私はある体験を思い出しました。それは、私自身が声を枯らしてしまい、うまく声が出せないでいたときのことでした。お店に入って店員さんに注文しようとしたのですが、ほとんど声が出ないため、うまく伝わりませんでした。店員さんも困っていて、私も困り、不安になりました。後ろに並んでいる人達にも、迷惑をかけています。中には「何やっているんだ」と、いらいらしている人もいるかもしれません。

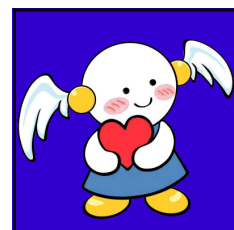
そんなとき、私の後ろに並んでいた人が、私の注文を代わりに伝えてくれたのです。私は、とても助かり、あたたかい気持ちになりました。その時は、自分の声でしっかりお礼を言うことができませんでした。本当にうれしく、ありがたく感じました。

名前も知らない人に声をかけて助けるということは、とてもすごいことだと思います。私は、困っている人がいても、どう声をかけていいのかわからず、そのままにしてしまったことがあります。助けてあげたくても、どうすればいいのかわからないときがあります。そんなときは、自分が嫌になったり、悪いことをしているような気分になったり、みじめな気分になったりします。

だから、今度は勇気を出して、声をかけてみたいと思います。

「どうしましたか。」 「何かお困りですか。」 「お手伝いしましょうか。」

どんなひと言でもいいと思います。気づいていて、助けたいという気持ちがあることを伝えることが大切だと思います。障害がある人と共に生きる社会の実現に向けて、私にできる最初の一步です。次に困っている人を見かけたら、見て見ぬふりをせず、勇気を出して声をかけてみようと思います。



編集後記

9月12日（木）、村田先生の奥さんと息子さん（5ヶ月）が来校され、朝自習の時間に3年1組の生徒とふれあい活動を行いました。実際に赤ちゃんをだっこしたり、子育てに関する質疑応答などを行ったりしました。また、同日の午後、2年生を対象に、「思春期ふれあい体験①いのちの授業」を行い、常盤大学の村井先生から、思春期のこころとからだについて理解し、自分自身のことを考えるための講話をいただきました。自分自身を大切にすること、親や周りの人に感謝することなど、多くの事を学ぶことができたと思います。（文責：栗原秀雄）



本学校だよりは、学校のホームページ（www.sopia.or.jp/n-asojh/）にカラーで掲載していますのでご覧ください。